

# THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリー：変化をもたらす



少年・少女の夢再び

Rotary : Making a Difference

R I 会長 イアン H.S. ライズリー

2017~2018

富津中央RC会長 石渡 鋼

国際ロータリー 第2790地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12  
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

## No.2522 第31回例会 2018. 3. 8 雨

点 鐘：石渡 鋼 会長  
進 行：白石 廣 副SAA  
ソング：我等の生業

### 会長挨拶

石渡 鋼 会長



皆さんこんにちは。 今日はこのように酷いお天気のなかの、例会出席ご苦労様です。お陰さまで先週の例会で本年度30回を数えることとなりました。あと3分の1頑張らねばと緊蹙の体ですが、会長挨拶での私の話のタネの引き出しが底を着いてまいりました。自分にとって悩ましい事ではありますが、考えてみればどんなに立派な話が出る訳もなく、難しく考えると後に続く会長さんにもご迷惑になりますので他愛もないお話でお許しを頂きます。

皆さんがこれまでに仕事や旅行で地元を離れ、そして帰って来た時に他の地方で観られた光景と地元との車窓風景の違いに、何か気づかれたことは無いでしょうか。国道筋のダンプカーの多いのは

昔からですが、他と比べて我が地方に特に多いのではと思わせるのが、「〇〇家」と書かれた案内板では。街の美観からすれば如何なものかとも？ しかしそのつもりで遠方の悔やみに出かけ、道に迷ったことが続き、特にそう思うのかもしれませんが。またこれも単なる思い込みかも知れませんが、我家の横を通る市道を行き交う車ですが、90年代には建設関連の車、一目で職人さんと分かる車が朝晩、列を為していたのに、今日この頃は介護関連の車両の多い事、道路風景もその時代を映しているのかと思った事でした。

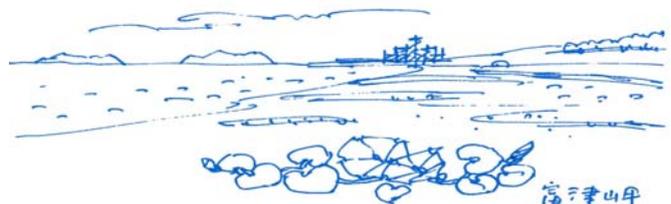
### 幹事報告

平野安照 幹事



1. ガバナー事務所より2018年2月台湾東部地震義援金について案内受領
  - 1) 2790地区として一括し、30万円を義援金として指定口座に送金する。
  - 2) 富津中央RCとしては3月8日例会で義援金を

〒293-0043 富津市岩瀬 841-3  
いち川旅館 Ichikawa ryokan  
841-3 Iwase Futtsu-shi Chiba-ken,  
Tel. 0439-65-0177 Fax. 0439-65-0178  
URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>  
Mail [home@futtsuchuo-rotary.org](mailto:home@futtsuchuo-rotary.org)



募り、集まった義援金23,000円を指定口座へ送金する。

2. 第23回日本青少年交換研究会・千葉会議の案内受領(回覧)

・日 時:2018年5月12日(土)、13日(日)

・場 所:幕張メッセ国際会議場

・締 切:2018年3月31日

3. 第3回 第4分区親睦麻雀大会参加者確定の案内受領

・日 時:2018年3月17日(土)

集合8:30、開始9:00

・場 所:三色(麻雀) 木更津市永井作 1-10-1  
電話:0438-23-8077

・会 費:5,000円

・参加者:千葉会員・榎本会員・伊藤会員・高橋会員・高島会員・原田元会員(富津中央 RC 関係者のみ記載)

4. 例会プログラムについて

4月5日(木)の例会プログラムにおいて、花見例会を変更し、鋸山散策の移動例会実施を検討

### 長寿ロータリアンとして表彰



三枝一雄 会員 85才

### 研修講座 第5班発表会



### 「これからのロータリー」

コーディネーター

榎本守男 会員



1. 研修計画

研修リーダー 千葉一利

副リーダー 小野恒靖

「学校とは 学び方を 学ぶところ」今、そのことが大事と言われている。ロータリーでお互いの質を高め合うにはどうしたらいいでしょうか？

2. 第5班の課題「これからのロータリー」

メンバー 榎本、須藤、平川、神子勝、山田、特別参加 渡辺(哲)、高橋

発表者 須藤 隆、平川恵敏(渡辺哲 代弁)  
神子勝美、

コーディネーター 榎本守男

3. ロータリーの歴史

ロータリーは、一人のアメリカ人のビジョンによって始まりました。その人の名は、ポール・ハリス。シカゴで弁護士として働いていたハリスが、世界初のロータリークラブ(シカゴ・ロータリークラブ)を設立したのは、1905年2月23日。さまざまな分野の職業人が集まって知恵を寄せ合い、生涯にわたる友情を培うことのできる場をつくるのがハリスの夢でした。

4. 夢の継続

ロータリーは1905年～2018年、113年の歴史があり、世界のほぼすべての国や地域で草の根の活動を行っている。世界で120万人のメンバーがおり、ロータリーが私たちにとって何を意味するにせよ、世界は、その活動成果によってロータリーを知るのです。

5. 会員減少の理由 → ロータリーの3K

高齢化、高コスト化、クラブ運営の硬直化

## 6. 退会の理由 → 3つの不足

- 1) クラブのリーダーシップ、
- 2) 費用に見合う充実感、
- 3) やり甲斐を感じずる奉仕活動

これからもクラブ会員数の減少は続いてゆくと考えられます。しかしロータリークラブ存続の意義は決して消滅するものではありません。なぜならロータリーは人材の宝庫です。単に事業経営の専門家であるだけでなく、多才な才能の持ち主の集りです。個人の心の居場所としてのもう一つの間人間関係がロータリークラブにはあるからです。

## 7. 地区・分区 ロータリークラブの現状分析

会員減少→組織の沈滞化→さらに減少→魅力  
を失う

期待感のない組織・奉仕活動の縮小  
→クラブの格差拡大、成果が希薄

## 8. いかなる組織も成立する要因

人・物・志の3つの要素

この3要素なければ、どんな組織も成り立たず、  
継続できない。

## 9. 将来への危機感

対策しなければ組織は消滅する。

対策のリミットは常に今でしょう。

「これからのロータリーについて」今日は みんなで考えてみましょう

## 10. 発表者

須藤隆 会員

- ・仕事をリタイア後にロータリーに入会した動機
- ・クラブの魅力・失望
- ・あなたにとってのロータリーは何か？
- ・ロータリーの将来像
- ・これからのロータリー

平川恵敏 会員 (渡辺哲会員) 代弁

会長幹事経験者、次次年度会長予定者で、一度退会されて再入会、在籍約30年の貴重な経験から外から見たロータリーと気持ちの変化、これからのクラブをどうしたいかを語る。

神子勝美 会員

ロータリー歴3年未満、次年度は幹事、富津クラブから富津中央RCに加入し、クラブに対して今、感じていること、仕事との両立(時間のやりくり)で、これからクラブに期待する事を語る。

## 11. チャーターメンバーの意見

志波 克 会員

創立時と現在のクラブの違い、遺すべきものは何か？ 3つに集約。

## 12. 結論

私はこう思う。ロータリーは時代で変化している。遺すべきものを守るもの、捨てるもの、変えるもの。その時々、ロータリアンが適切に判断する。私たちは、長いスパンで考える必要はない。だからロータリーは、113年続いている。



発表者

須藤 隆 会員



## 1. 私がロータリーに入会した動機

私は、ほぼ10年前にそれまでの会社勤務から完全にリタイアしました。リタイア後に志波会員に誘われて、ロータリーに入会したわけですが、志波さんからロータリー入会のお誘いは初めて

ではなく、その10年以上前にもロータリーを紹介されました。その時は、業務が大変忙しく、とてもロータリーの例会に出席できる余裕がないとしてお断りをしておりました。その私がなぜロータリーに入会したのでしょうか。志波さんに誘われたことだけが動機ではありません。私が現役で働いていたころは、会社の仕事に埋没して、子供のPTA行事などにも参加できず、家内任せでした。そのため、大貫に40年以上も住んでいながら家の近くの住民以外の地域の人との交流がほとんどありませんでした。志波さんに誘われたときはロータリーについてよくわかりませんでした。私はロータリーを地域の方々と交流できるコミュニティととらえ、これからは今までの企業を通じた人脈以外に地域の人々との交流を大事にしたいとの思いからロータリーに入会した次第です。

## 2. クラブの魅力

クラブの魅力はいろいろと挙げられます。

- 1) 会員同士の交流により、情報交換ができる。
- 2) 会員同士が友達になれ、相互の信頼関係を醸成することにより友情を確かめられる。
- 3) ロータリーのいろいろな役割を経験することで新たな体験が人としての成長につながる。
- 4) 人の卓話を聞いたり、自ら卓話したりすることで、人前で話すことの難しさを多くの人は実感します。ロータリーでは人前で話す機会が多く、話すことへの向上心を育める。
- 5) クラブ奉仕、社会奉仕を通じて自らの社会的存在感を意識できる。
- 6) 寄付を通じてロータリアンは、世界の平和、貧困対策等に奉仕していることになる。
- 7) ロータリーは利害関係のない人の集まりであり、ともすると、事なかれ主義になり、ことの白黒に対しあいまいな態度になりがちである。これはロータリーの欠点でもあり、良いところでもあるのか？

## 3. 私にとってのロータリー

クラブの魅力を通じて、自己研鑽、自己向上、相互啓発に資する場である。

## 4. ロータリーの将来像

ロータリーの魅力を会員の多くが実感していれば、ロータリーの存在価値は下がらない。会員一人一人が自らのロータリーの価値観を見出し、実感することが最も肝要である。

## 5. これからのロータリー

ロータリーに関する基本的な理念、考え方はこれからも大きく変わることはない。必然的に高齢化が進む中(現在当クラブでは70才以上が17名と半数を占める)、高齢者を意識したクラブの活動計画が求められる。高齢なロータリアンにとって、ロータリーは、出かけることのできるコミュニティとして生活の一部に位置づけることができる。そういう状況を鑑みると、これからのロータリーは、若い世代と高齢者が共存していくクラブ運営を模索していく必要がある。

渡辺哲夫 会員(平川恵敏 会員の代弁)



## 1. 再入会の感想

一度、外に出てみて、現ロータリークラブの必要性和良さを痛感しました。30年間自分を育ててくれたロータリーに対して、ありがたみを感じ、これからも仲間と一緒に活動していきたいと思えます。

## 2. これからのロータリー

以下のことを心掛けより良いクラブづくりを

- 1) 若い会員と女性会員の増強
- 2) 楽しいクラブづくり
- 3) 自由活発な発言
- 4) お互いの良き信頼関係
- 5) 活動内容の充実

神子勝美 会員



#### 1. 富津RC～富津中央RCへ

富津RCに神子恒会員の紹介で入会しましたが、伝統あるクラブが消滅するのが、非常に残念でなりません。思い切った活動もできなかったことに反省しています。神子恒会員から他のクラブを紹介してもらい、高橋会員の誘いもあり、富津中央RCに入会することを決めました。

#### 2. 富津中央RCに入会して感じていること

- 1) 70, 80歳代の会員が元気であることに驚いています。
- 2) 例会で自由な発言ができ、雰囲気が良いこと
- 3) 話をよく聞いてくれることに感謝。
- 4) 例会の欠席にも嫌な顔をしないで迎えてくれ、家族的雰囲気がある。

#### 3. これからのロータリー

- 1) 今まで地域で限界集落を活性化させる議論がなされてこなかったことも会員増強に繋がらなかった原因ではないかと、今後地域をどうしていくかロータリーを通して考えねばならないと思っています。
- 2) 地域にロータリーの存在をアピールしていかねばならないと思っている。
  - ・ 小、中、高の各学校とのかかわりを今以上に取り、アピールしていく
  - ・ 富津市には駅が多い。ターゲットを絞り、まず大貫駅から美化運動の実施
  - ・ 地域の文化遺産を守る活動の実施

生き生きとした活動できるロータリーにしたいと思います。40代、50代、60代は汗をかき、70代、80代は知恵を出して活動していく。

#### チャーターメンバーの意見

志波 克 会員



#### 創立時と現在のクラブの違い

##### ①「出席」

ロータリーといえば「出席が厳しい」が御定法でした。何処のクラブでも出席率への拘りが強かったのでメイクアップが多く、当クラブでもお客様(ビジター)の居ない例会は殆どありませんでした。

##### ②「服装」

背広にネクタイが普通で、たまに現場から作業服で出席すると目立たない場所に坐ったものです。

##### ③「奉仕」

物品寄贈、優良従業員表彰、善行者表彰、交換学生、中学生英語発表会主催、公共地整備清掃、親睦旅行、姉妹クラブ(日・臺・米)との活発な交流、多様な外部卓話者、等々、現在と少し方向が異なりますが結構忙しかったです。

私個人としては、その時々「今」を楽しみながら過ごしていましたので、変化への違和感はありません。現在も優れた人達と週一度お会いできることを楽しみに応分の務めを果たせる幸せを感じています。

#### 遺すべきもの

- ① 明るさ
- ② 人に対する尊敬と思いやり
- ③ 行動(思考と実働)

## 講座を終えて

千葉一利 研修リーダー



第5班の発表で当初計画された5講座のうちこれで4講座が終了しました。残るは3班の「モラロジー」を残すだけとなりました。今までの発表はそれぞれのチームが真剣にテーマに向き合い、中身の濃い、素晴らしい内容だったと思います。残りの班の発表もよろしくお祈りします。

小野恒靖 研修副リーダー



コーディネーターの榎本さんをはじめ、3人の発表者それぞれが説得力のある話で、大変充実した研修となりましたとして、発表チームへの労いの言葉を述べられた。

## ニコニコ BOX

神子勝美 親睦担当部長

- \*本間英一 結婚・誕生祝い有難うございます。
- \*三枝一雄 三枝病院新築工事完成(3. 21)
- 小野恒靖 県民マラソンに参加しました。
- 千葉一利 研修榎本チーム有難う
- 榎本守男 研修計画ご協力ありがとう
- 研修チーム 3月6日、7名で夜遅くまで研修

神子勝美 パネラーを担当させていただき

須藤 隆 つたない話を聞いていただき

\*>1,000円

合計10,000円

## 出席報告

鈴木 勉 出席担当部員

区分	会員数	出席	欠席	MUp	出席率
今回	34/34	25	9		73.53%
前回	34/32	24	8		75.00%
前々回	34/32	21	11		65.63%

## 編集後記

「これからのロータリーはどうあるべきか」との問いの下に、いろいろな視点から、ロータリーのこれからの方向性にスポットがあてられた意義ある発表会だったように思います。ロータリーへの思いは、個人個人によって異なり、それぞれの人なりにロータリーの魅力を感じ、その魅力を糧としてロータリーに向き合うことが大切かと思えます。

「ロータリーの友」誌1月号に「多様性はロータリーの強み」というタイトルで、RI会長のメッセージが掲載されています。その中で会員の年齢層の問題と、ジェンダー(性)の観点が述べられています。本発表の中でも、これからは高齢者への配慮と女性会員を増やしていくことが課題として触れられていますが、この問題はまさに当クラブだけでなく全世界のロータリーに当てはまることのようにです。

追記)

「ロータリーの友」誌1月号に掲載されている松宮剛氏(元RI理事)の記事、「職業奉仕について考える」を大変印象深く読みました。職業奉仕の考え方もさることながら、職業の本質、人とのかかわり方等に人生そのものを感じました。

皆さんもぜひご一読を!

(すどう)

